

コウノトリ（写真提供豊岡市：本文中に関連記事があります）

目次 contents

- ◇アカシアの大連 2
- ◇コウノトリ文化館「コウノピア」が
オープンしました 4
- ◇台湾中部大地震と台湾経済の近況 7
- ◇第2回高石楽市楽座「天女の羽衣伝説～楽しさいっぱいに
出逢う羽衣七夕まつり」が開催されます 10
- ◇紀伊半島南麓から新天地がみえる 12
- ◇地域住民と一緒に設計した防災公園
「北条ふれあい幸園」がオープンしました 13
- ◇所員ひとりの一口メッセージ 14
- ◇企画力と実行力の向上をめざします 17
- ◇(株)九州地域計画研究所から(株)よかネットへ 17
- ◇まちかど 18

アカシアの大連—楓林街保持型改造「日式風情一条街」(1)

〔京都事務所／中根 博一〕

昨年、中国の遼寧省大連市のプロジェクトに参加する機会に恵まれ、年末、年始もあわただしく大連を往復しておりました。

大連市は、かつての大連と旅順・金州をも含む面積12,574km²、人口500万人程の地域です。年間降雨量が日本の1/10程度と湿度が低く、冬季の寒さの厳しい地域で、日本の北海道の気候に似ています。大連という響きに郷愁を感じる年配の日本人も多く、歴史的に日本とは深い繋がりのある都市です。

大連の都市としての形成は、19世紀末に帝政ロシアが「南下政策」の一貫として、軍港としての旅順に対し、寒村だった青泥窪（チンニーワー）で、巨大な港をもつ商業都市（ダーリニー）建設に着手したのが起源です。その後、日露戦争、第二次世界大戦、国共内戦を経て、名称は、ダーリニー、大連、旅大（リュウダー）、再び大連と改名されました。

『パリをモデルにした都市計画』

大連の都市構造は帝政ロシアの東清鉄道がパリをモデルにしてつくったダーリニー計画を基にした、いくつもの広場を中心とした多心放射状街路で構成され、基本的構造は現在も変わりません。帝政ロシア時代の次に日本が進出し、地域経営会社として南満州鉄道株式会社（満鉄）が設立され、インフラ整備や各種施設整備が進み商都・大連が形成されました。



図出典：大連都市物語／河出書房新社
1935年の大連

『近代建築の宝庫大連』

中山広場（中心的広場・ロータリー）を囲む形で、日本の建築家達が設計した、旧大連市役所、旧中国銀行、旧横浜金正銀行、旧関東逓信局、旧朝鮮銀行、旧大連民政署等の近代建築物が現存する他、旧ヤマトホテル、満鉄が建設した学校・病院・図書館なども残されています。また、ドイツ風ハーフティンバー様式の旧東清鉄道汽船会社の建物などの「ロシアの建物が並ぶ街」—「露西亞町」をはじめとする、「洋風・レンガ造建築」が街の随所に見られ、異国情緒あふれる街といえます。

大連・南山地区『日式風情一条街』—楓林街歴史建築保持型改造計画

本プロジェクトは、中国政府の国策である、南の香港・上海等の都市に負けない北の都市大連の都市づくりの一貫として、大連市における観光・住宅政策として位置づけられたものです。その目的は新たな観光スポットの創出と質の高い戸建住宅の供給で、これは、外貨の獲得もありますが、国民の観光による財の還流を図ることと、急速に進行している階層分化による住宅に対するニーズの多様化に対応するための施策と思われる。

計画対象地は、大連市南部の南山麓地区約11haの1900年代初頭から1920年代にかけて満鉄により建設された高級戸建住宅地区です。北斜面ながら、傾斜地をうまく活用した建物配置、建築計画、外構、アカシアを主とした並木や宅内緑化等が当時の日本人建築家や建設技術者により計画・建設され、その質の高さは、現代日本における先進的住宅地を凌ぐレベルで現存しています。

建築物は、既存調査により、1～3級に区別・評価されており、勾配の急な切妻で軒が深く、開口部の小さい戸建住宅が建築デザインの基調となっており上記1級保存対象建築物



1級保存建築物

のほとんどがこのデザインの住宅であり、計画においても1級建築物は保全活用としました。

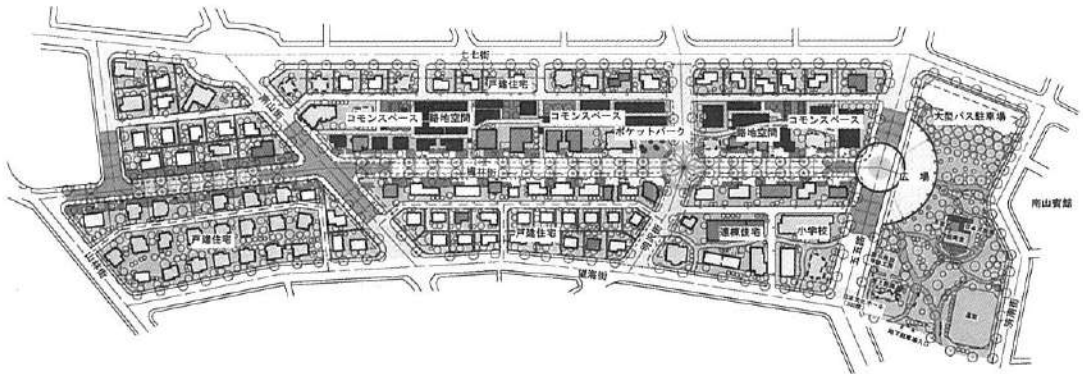
『楓林街保持型改造マスタープラン概要』

「日式風情」の街づくりを目標に、1級保存建築物を活用した風格ある街並み形成、現代日本の文化紹介のために、日式的レストラン・ショップ等を中心とした商業ゾーンは計画地の中央を東西に通る楓林街沿道に配し、歩行者専用の17mのファッションストリートと路地空間によって構成し、東端のブロックは拠点ゾーンとして、日本・アジアの芸能文化・工芸等の紹介・体験・販売等の機能をもつ文化施設、商業ゾーンを取り巻く形で住宅を配した提案を行い幸いにも企画案は採択され、基本設計へと繋がっています。

計画・設計の詳細については機会があればまた報告したいと考えていますが、そもそも、私達が当該プロジェクトに参加できたのは大連市及び薄市長と長年にわたり親交が深く、

大連において多様な事業を展開しているビルメンテナンス業界の草分け的存在である丸橋会長率いるダイケングループに対し、薄市長からの企画設計コンペへの参加要請がなされたことから、丸橋会長より我社の三輪会長に協力要請がありプロジェクトチームを結成するに至ったからです。紙面で失礼とは存じますが、貴重な体験をさせて頂いたことを丸橋会長をはじめ、ダイケングループ幹部の方々、プロジェクトチームの皆様深く感謝するものであります。

最後に、我々の作成した基本設計を基に実施設計と建設工事が並行して行われ、夏には楓林街及び沿道の街並みが完成するという日本では信じられないスピードで計画の実現が図られている他、「露西亞式風情一条街」「韓国式風情一条街」という観光スポットづくりも同時進行しています。一度大連を訪れ歴史の追体験をしてみてもはどうでしょうか。



楓林街保持型改造マスタープラン

コウノトリ文化館「コウノピア」がオープンしました

〔大阪事務所／内村 雄二〕

コウノピアとは

昨年11月、兵庫県豊岡市に県立コウノトリ郷公園が開園してから、約7カ月後の6月3日に豊岡市立コウノトリ文化館「コウノピア」がオープンしました。コウノトリの野生復帰を目標に、そのための研究、飼育・育成、啓発・普及の3つのテーマをもつ郷公園ですが、コウノピアは啓発・普及の拠点として整備されたものです。コウノトリそのものを繁殖させることも重要ですが、かつてのようにコウノトリと共生していくために必要な自然や地域資源・文化、暮らしなどの環境を同時にとりもどしてゆかねばなりません。昭和30年に本格的な保護策に取り組み始め、失敗の連続だった人工化の克服、さらに涙ぐましい飼育・繁殖（昭和38年開始）といった半世紀近い努力が報われ、今では60羽以上のコウノトリが郷公園にいます。このように、コウノトリをよみがえらせた科学的な成果は着実に進展していますが、いくら数が増えても生息を守る環境がなくては野生復帰はできません。コウノトリの生息を守る環境、それは人間側の問題ですし、人間にしか実現することができないことも事実です。円山川、六方たんぼ、但馬牛、コウノトリ、たくさんの生き物・自然、そして人・文化がバランスよく共存できた往時のしくみに、これからの共生環境づく

りのヒントを得よう、どうしてゆけば良いか一緒に考えましょう、といった呼びかけ、問いかけからスタートです。その役割を担うのがコウノピアなのです。

コウノピアの特徴

施設的にみて、コウノピアは3つの特徴があります。1番の特徴は、受け身を抜け出す文化展示を試みていることです。つまり、「展示品をうやうやしく遠くから鑑賞するだけ」が大切ではなく、より楽しく展示し、有効に利用するという発想に立った施設」といえます（朝日新聞eメール時評、橋爪大阪市大助教授著より引用）。コウノトリの剥製が展示され、生態の紹介などもありますが、何よりコウノトリを育んだ地域・人の文化について、手づくりの展示品が光ります。魚や昆虫等をさわることでもあります。楽しく展示し、有効に利用するというひとつの答えのように思えます。郷公園全体がフィールドミュージアムでもあり、ワークショップなど諸活動が自由に行動できるミュージアムをめざす意味でのコア施設という位置づけです。建物と一体となったコウノトリ公開場には、6羽のコウノトリが棚田や池で餌とりをしています。こちらから鑑賞しているというより、同じ視線、目の高さで見つめ合っているような、あるいはコウノトリの方がこちらを鑑賞しているように



アイガモ農法の田んぼから望むコウノピア



里山の借景に配慮した行まいと庭



手づくりの家具でくつろぐことのできる多目的ホール
ここからコウノトリを見ます

も思えます。

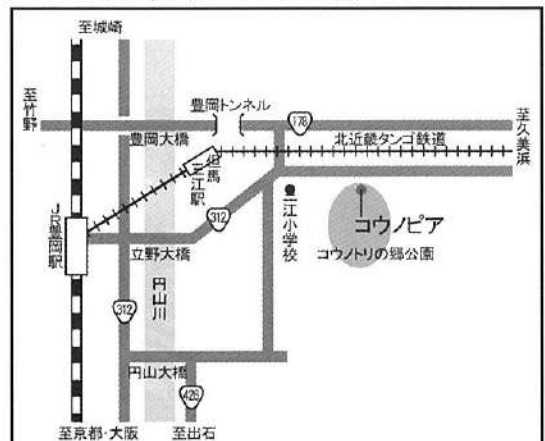
2番目の特徴は、地元の有志達の活動を支援する施設だということです。上田先生（高校教諭）、菅沼先生（小学校教諭）、市の佐竹さん（コウノピア館長）や飼育担当の松島さん、その他たくさんの仲間が、郷公園とコウノピアを現実のものにし、オープン後も熱心にボランティア活動を繰り返しています。コウノピアは、支援活動の拠点として集い、行動する場としての機能・空間を備えると同時に、活動に必要な農機具（例えばクワや耕耘機はビオトープづくりに欠かせません）なども展示のひとつだという考え方をしています。専門家のための研究所でもなく、学校の実験室でもなく、オリジナルに自由な学習活動を創造するための場をめざしています。作業をして長靴を履いたままでも、遠慮なく入れる施設、自分で捕獲したり採集した動植物を、手作りで生態展示物にできる施設を具体化しています（その詳細な工夫内容については、是非コウノピアを訪ねてください）。

3つ目は、建築的な特徴です。約1000㎡（300坪）の床をもった木造建築で、近年建造されたものでは関西屈指の規模だと思います。大木を使わないエンジニアリングウッド（大断面集成材）を採用し、民家や集落景観などを考慮して現代的にアレンジしてみまし



地元の高校で作られたコウノトリ・カイトも展示のひとつ
もちろん凧あげのときはこれを使います

た。竣工前から、軒先にツバメが巣をつくり、^{いらか}葦にセキレイなどの野鳥が、尾を振ってきれいな鳴声を聴かせてくれています。農家にある庭空間を設け、語らい、くつろぎ、しごとの場を演出しています。また環境への配慮という点でユニークなのは、スーパーウッドというドイツ生まれのリサイクル材（人工木）を展望テラス（コウノトリをみるためのデッキ空間）に使っていますが、本物と区別がつかないほど良くできています。



開館時間：AM9:00～PM5:00

休館日：月曜日(休日に当たるときはその翌日)

12月28日～1月4日

問い合わせ先：豊岡市教育委員会生涯学習課
コウノトリの郷公園推進室

〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺127

TEL.0796-23-7750 FAX.0796-23-8005



地域の自然や資源をテーマとした文化展のスペース

むすび

コウノトリは、カラスやスズメと一緒に、人里近い場所で生きてきました。いいかえると、人との共存を前提とする生き物のひとつなのです。風景は、環境のバロメーターといわれますが、同様に考えると、かつて日本のあちこちにいたコウノトリは、人里、すなわち人の暮らし・文化のバロメーターのように思われてなりません。是非や善悪を決めることはできませんが、今までの社会は、コウノ



デッキから見るコウノトリ、柵田を利用した飼育場です

トリの繁殖に適した環境よりは、カラスの繁殖に適した環境を造ってきたのは間違いありません。ただいえるのは、人に近い大型生物、つまり食物連鎖の頂点に近い生き物が繁殖できる環境は、自然状態（人を含む）の良さを表しているということです。最後までコウノトリが生息できた兵庫県豊岡市の取組が、本質的な環境を考える意味での嚆矢となり、全国に多様な波紋をもたらすことと思います。

キーワードは 参加・手づくり・新発見

「私にもなにかできるかしら」
「よしっ、帰ったらかんぱろう」
意欲をかきたせるきっかけづくり
そんな場所を提供するところ——それがコウノピアです。

コウノピアはこんな施設です。

〈分かること〉

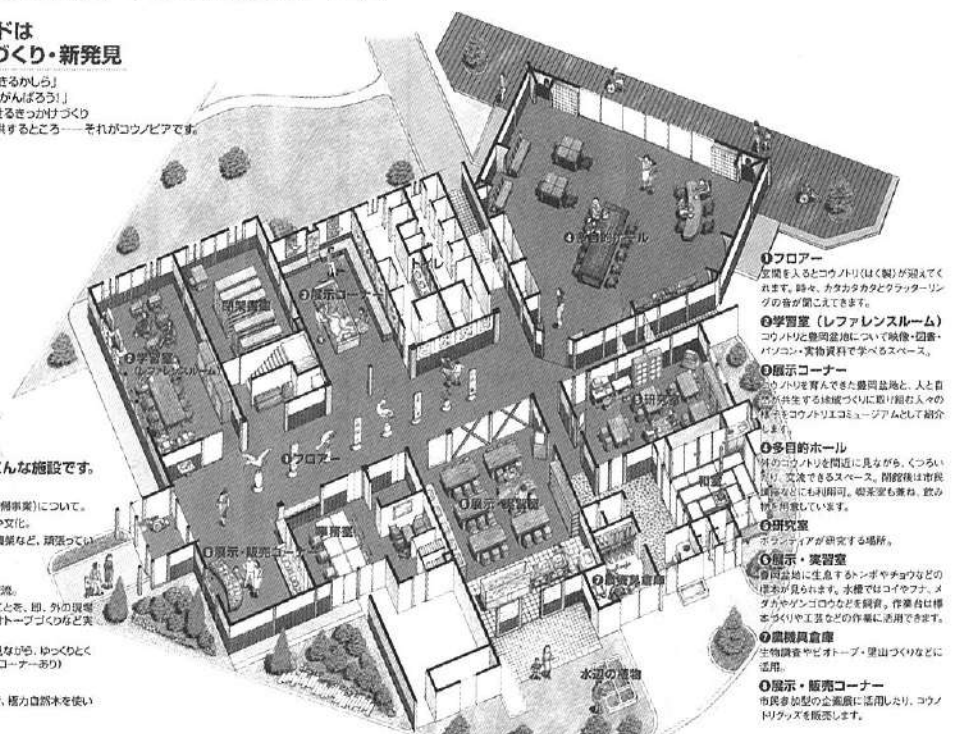
- コウノトリ(野生復帰事業)について。
- 豊岡地域の自然や文化。
- 自然保護や有機農業など、関連している人たちの情報。

〈できること〉

- いろんな人との交流。
- 館の中で学んだことを、田、外の現場で生物調査やビオトープづくりなど実践体験学習。
- 外のコウノトリを見ながら、ゆっくりとくつろげます。(喫茶コーナーあり)

〈建物〉

- 建物は白板を避け、極小の自然木を使いました。



- ①フロアー
玄関を入るとコウノトリ(はく製)が迎えてくれます。蹄ネ、カタカタとクワックワックの音が聞こえてきます。
- ②学習室(レファレンスルーム)
コウノトリと豊岡盆地について映像・図書・パソコン・実物資料で学べるスペース。
- ③展示コーナー
コウノトリを育てるでもっと豊岡盆地と、人と自然が共存する地域づくりに取り組む人々の生き生きとした取り組みを紹介しています。
- ④多目的ホール
外のコウノトリを間近に見ながら、くつろぎながら、交流できるスペース。閉館後は市民講座などにも利用可能。喫茶室も兼ね、飲み物を用意しています。
- ⑤研究室
ボランティアが研究する場所。
- ⑥展示・実習室
豊岡盆地に生息するトンボやチョウなどの標本が見られます。水櫃ではコイやフナ、メダカやゲンゴロウなどを飼育。作業台は標本づくりや工芸などの作業にも活用できます。
- ⑦農機具倉庫
生物調査やビオトープ・田づくりなどに活用。
- ⑧展示・販売コーナー
市民多岐の製菓店に活用したり、コウノトリグッズを販売します。

施設案内図：出典パンフレット

台湾中部大地震と台湾経済の近況

〔大阪事務所／杉原 五郎〕



このたび、2度目の台湾調査を行った。

今回は、台湾中部大地震の被災実態と復興状況を調査することが主目的であったが、新竹科学工業園区を視察したり、台湾大学や台北市の関係者と交流し、台湾経済の近況に触れるいい機会となった。

農山村を襲った台湾中部大地震

台湾中部大地震(現地では921地震という)は、昨年9月21日に発生した。震源は、台湾のほぼ中央部、台北から南へ150kmほどのところで、震度は、マグニチュード7.7(兵庫県南部地震はM7.2)。死者と行方不明者は、約2,500人(阪神・淡路大震災約6,400人)、倒壊家屋は、全壊約2.7万棟(同10.5万棟)、半壊約2.5万棟(同14.4万棟)。被災の数値だけを見ると、阪神・淡路大震災より被災の程度は小さかったと言えるが、被災現地を視察してなかなか厳しいものがあると感じた。ちなみに、今回の調査では、台湾大学の陳亮全先生(都市計画の教授)に案内していただき、先生から流暢な日本語で復興都市計画の現状について詳細な説明を受けることができた。

最初に、台湾中部の大都市・台中市からバスで1時間ほど山間部に入った南投県中寮という被災地を訪れた。この町は、震災でまちの中心部の商店街がほぼ全滅に近い状態となった。被災地には、被災を免れた建物を拠点に支援センターができていた。大学の関係者がボランティアとして現地に入り、被災実態を調べながら、復興のまちづくりとむらづくりを支援していた。支援センターでは、航空写真をベースにした大きな図面に、被災の実態や復興の取り組みを示す幾つかの情報が

ポイントされていた。建物には空調はなく、大きな扇風機が天井で緩やかに回っていたが、6月はじめでもすでに相当な暑さで、被災した人々の生活の厳しさが思いやられた。近くの幼稚園には、お母さんたちが20～30人ほど集まって、ちまきをつくって復興資金の足しにするのだと頑張っていた。

山が相当規模で動き、山肌が露わになっていた。陳先生のお話では、地震で一瞬のうちに1km以上も動いた家があるとのことである。これから台風の季節を迎え、復旧のメドが立たず土石流など二次災害の危険性を強調されていた。

次に、台湾では観光地として有名な日月潭(湖)の近くにある原住民の被災地を訪れた。震災によって生活と暮らしの基盤に大きな打撃を受けたのであるが、それに負けず、震災をきっかけにして自分たちのむら(コミュニティ)を再建し、原住民としてのアイデンティティを問い直す文化運動が熱心に取り組まれていた。竹をうまく使った仮設住宅、原住民としての言語の学習会、インターネットのホームページを活用した情報発信活動など、ユニークな取り組みがなされていた。

最後に、台中市の近くの大里という町にあ



南投県中寮の支援センターで説明を受ける

る仮設住宅地を訪れ、倒壊した家屋やマンションを離れて住んでいる被災者と交流した。台湾では、被災した人々に家賃補助として一人月額3,000元(約12,000円、4人家族で年約60万円程度)が支給され、国民住宅の分譲もなされているため、仮設住宅に入っている被災者はそれほど多いわけではない。また、仮設住宅に入っている人々は全体に若く、子どもが多いため、仮設住宅地全体に活気が感じられた。

阪神・淡路大震災は、既成市街地を直撃した大地震で、家屋の倒壊と火災によって甚大な被害を被ったわけであるが、台湾中部大地震の場合には、台中の一部市街地も被災しているが、全体的には、農山村を広い範囲で襲った地震である。このため、阪神・淡路大震災とは異なった課題に直面している。阪神・淡路大震災を経験し、復興まちづくりいろいろな形で関わってきた者として、今回の台湾中部大地震の被害と復興の取り組みを直接見聞しているところがあった。私個人としては、復興計画の策定と復興事業の進め方、地域レベルでの住民参加による復興まちづくり、コンサルタントや大学の研究者など専門家の役割について日台比較震災研究のテーマとして関心を持った。

新竹科学工業園区と台湾経済

震災調査の合間に、新竹科学工業園区(日本の筑波、関西学研に相当する新都市)を見て回り、関係者より話を聞く機会があった。新竹は、1980年に設立された新都市で、交通大学、清華大学、中華大学の3大学、工業技術研究院など国の研究機関、民間ハイテクメーカー

の研究所等が集積する科学都市(サイエンスシティ)である。面積は、605haで、ここに働く研究者・従業者は約5.5万人。中正国際空港まで車で約50分、台北までは約1時間半(約70km)の位置にあり、高速道路によって結ばれている。

台湾は、世界のノートパソコン生産の3割強、マザーボードやモニターでは5割を優に越えるシェアを誇っているが、そのほとんどは新竹科学工業園区において生産されている。いまや、新竹は、台湾だけでなく、アジアのシリコンバレーといわれ、ハイテクのメッカとなっている。関西学研都市のセカンドステージプランで学術研究と産業創出の分野を担当し、関西学研を関西のシリコンバレーにできないかと思い悩んだものとして、なぜ、新竹はうまくいっているのか、その成功の秘密を知りたいと思った。「台湾は、伝統的に中小企業が元気な国である」、「オリジナルな研究開発では、アメリカや日本に遅れをとっているが、研究開発投資よりも生産に特化することにより、新製品や新技術を生み出し、集積の効果を発揮している」といった評価がなされている。

台湾は、3年ほど前にアジアを襲った経済危機を乗り越えて、経済は順調に伸びており、一人あたりのGDPは、13,000米ドルを越えている。台北と高雄を南北に縦断する高速道路は、いま至るところで拡幅事業を進めており、広いところは片側3車線を5車線に広げている。第二の高速道路もかなりできており、新幹線の建設構想も具体化しつつある。街を闊歩する若い女性のファッションはおしゃれで



日月潭近くの文化生活社区での交流

華やかであった。台湾は元気な国、という印象は確かである。

台北市の都市計画

台湾大学で、台北市の都市計画関係者と交流する機会があった。台北市役所の都市發展局都市設計科科长である林宗傑さんという方に台北市の都市計画について説明をしていただいた。

台北のまちは、東西8km、南北30kmというそれほど広くない市域に、約265万人ほどの人々が住んでいる。(ちなみに、大阪市は、面積約221km²、人口約260万人)。市域の北部や東部は山で非可住地であるため、実際の市街地は極めてコンパクトで、相当な高密都市となっている。台北駅の駅前には、51階建ての新光三越ビルがそびえ立ち、東部の新都心には、台北市役所の新庁舎や世界貿易センターなど新しい建築物がどんどん建てられている。市域の西端を流れる淡水河沿いには、超高層マンション群が林立している。市内には、南北と東西にMRTという公共交通網(地下鉄とモノレール)の整備が急テンポで進められ、市民の快適な足となっている。

台北の最も重要な都市問題は何か、という



台北市の新庁舎正面

問いには、クルマによる交通問題である、という答えが返ってきた。たしかに、クルマは増え続けており、市内の入り口では交通渋滞が著しく、駐車場不足も相当深刻な状況にある。交通問題は、同時に、環境問題でもある。クルマの増加によって、台北の空はもやっており、バイクに乗っている人々はほとんどが夏の暑いのにマスクをしている。街路の歩道部分が未整備でありあまり美しくないのが気になった。

最近、台北市では、社区(コミュニティ)レベルのまちづくりに力を入れており、地区環境改善と社区企画士(コミュニティプランナー)の制度を採用しはじめたとのことである。大都市行政だけでなく、市民の意向を踏まえて地区レベルのまちづくりや都市計画を進めようとしていることは注目に値する。

4日間という駆け足の調査で、断片的な印象記になったが、韓国や台湾などアジアの都市とまちづくりについては、引き続きウォッチングしていきたい。

第2回高石楽市楽座「織姫と彦星、天女の羽衣伝説 ～楽しさいっぱいに出逢う羽衣七夕まつり」が開催されます [大阪事務所/中塚 一]

昨年の12月に大阪府の高石市で開催された「第1回高石楽市楽座」(詳しくは、99号をご参考に)に引き続き、8月6日に「第2回高石楽市楽座」が、場所を南海高石駅前から南海羽衣駅前にサーカスの巡回の様に場所を移し開催されます。

羽衣は「七夕だ！」

全国に羽衣伝説を持つ市町村は多く、全国の関係市町村、伝説を愛する市民団体等による「羽衣交流サミット」が開かれています。しかし、地名に「羽衣」がついている地区が少ない中で、「羽衣という地名を活かさない手はない」ということで、羽衣伝説にまつわり「羽衣七夕まつり」を開催する運びとなりました。

これまで、羽衣駅周辺の商店街では、商店街による夜店等は行われていましたが、市民を巻き込んだイベントは初めてということで、

事前に様々な視点で話し合いが持たれました。「全国や関西ではどこで七夕まつりをやっているの?実際に見に行こう」「羽衣伝説って、どこからきているの?」など検討を重ね、「やっぱり、羽衣は七夕だ!」ということで、テーマが決まりました。

場所がなければ自分達で用意する

しかし、第1回のように、駅周辺にはまともな空き地が無く、具体的な話が前に進まなくなりかけましたが、地元商店街と商工会議所が先頭に立って様々な機関と調整・協議を行い、周辺自治会や警察等のご協力により、羽衣駅周辺の道路を歩行者天国にするという最も良い案に落ち着きました。また、メインイベントゾーンも2ヶ所の駅前の民間駐車場を一日だけお借りするというで確保することができました。

8月6日 PM4:00-PM9:00
羽衣駅周辺あちこち
(駅の東側・西側道路を歩行者天国にして)

第2回 高石楽市楽座

【催し物&イベント】

- 売切れご免!
高石とれどれ魚市 (高石市楽市楽座実行委員会)
- オープニングパレード&パントワリング (羽衣学園)
- 浴衣を着てパチリ「七夕写真館」
- とっておきフリーマーケット
- わくわくパズール (市内のお店が参加)
- 高石ものづくりまちづくりコーナー
- 「どんどんあきん持って来て!」あきん集めて、景品をもらっちゃおう!
- ふるまいスイカ割り大会
- 可愛い夢、いっぱい「七夕飾り」を割りました (市内7箇の市立幼稚園)
- 七夕たそがれコンサート (高石市楽市楽座)
- あら!不思議マジックショー
- 地元だんじり囃りモンライブ
- 街角ジャズライブ/アコースティックライブ
- 羽衣「七夕 大オークション」
- 楽しさ満載!
「羽衣ロマンティック夜店」

織姫と彦星、
天女の羽衣伝説
楽しさいっぱいに出逢おう

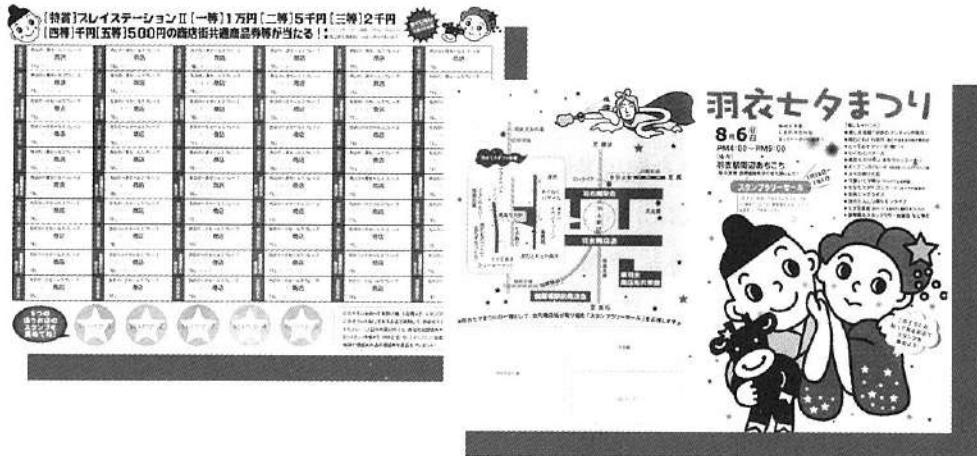
暑い物
スタンプラリーも
やっています

7月28日-8月6日

Hagoromo
Tanabata-
Matsuri

◆主催/高石商工会議所商店街連絡会 | 後援/高石市・10区・11区・12区・13区・13区東羽衣自治会、
羽衣駅前地区市街地再開発準備組合、羽衣駅西地区整備研究会 ◆協賛/高石市楽市楽座実行委員会 (株)ハーツ

羽衣七夕まつりのポスター



商店街で行うスタンプラリーの台紙

増殖していく市民ネットワークパワー

イベントに関しては、第1回でご協力いただいた漁業協同組合や市民音楽団、幼稚園、自治会、各種まちづくり団体等とのネットワークに加え、周辺の短期大学である羽衣学園のバトントワラーやプラスバンド、市内在住者等の2つのジャズグループ、マジッククラブ、元アナウンサーによる司会等、色々な人のつながりから、新しい人と人のネットワークが生き物のように増殖しています。

商店街ではスタンプラリーとラッキーチケットに挑戦

今回、主催の商店街連絡会等では、イベントの前に行うスタンプラリーと、イベント当日と後に行う空き缶によるラッキーチケットに挑戦します。

イベントをイベントで終わらせず、商店街の活性化に結びつけようと、地元商店街での活発な話し合いから生まれてきたアイデアです。スタンプラリーの特賞は、なんと「スレイステーション2」と、新しいお客さん層を呼び込もうとする若手を中心とした意気込みが感じられます。

様々なしがらみがうごめく中で

現在、高石市では、市街地再開発事業や土地区画整理事業、密集住宅市街地整備促進事業、連続立体交差事業など、今後100年のまちの将来の姿を決めるような、大きなまちづくり事業が動いています。しかし、事業規模が大きくなればなるほど、様々な利害関係や主義主張の軋轢等から、反対・賛成の意見の対立の溝が深まっていきます。そして、このような市民参加型のイベントにも影響を及ぼします。

しかし、当然、色々な意見を持った人々が集まるのが本来の「まち」の姿です。様々なしがらみがうごめく中で、このようなイベントで培われた市民ネットワークを活かしながら、今一度、原点に帰って、「このまちをどうするのか」、「このまちでどのような生活を送りたいのか」を、様々な立場の住民、商業者、利用者等が話し合う場を持ち、市民、企業、行政、専門家等みんなで「このまちの将来像」を共有していければと考えております。

紀伊半島南麓から新天地がみえる

〔大阪事務所／小阪 昌裕〕

昨年南紀熊野体験博が開催された紀伊半島に、地域外からの移住者が多く人口が減少していない不思議な地区があると聞き、和歌山県那智勝浦町色川地区に訪れ懇談しました。

地域ストックの地域外からの評価

当地区は、歴史的には熊野古道等の街道が通り、地域外の情報も行き交う開けた地域です。また、かつては鉱山と林業で栄え、今はありませんが、民宿、パチンコ店、映画館などがあつたそうです。

昭和52年に移住してきたIターン（地域外からの移住者）第1号である家族は、東京出身者でした。その人にお話をうかがったところ、南近畿の評価は、手つかずの自然が豊富にあり、気候が温暖であることでした。また、雪が降らず、高齢者になっても住みやすいことも強調されていました。その中で、当地区の魅力は水が豊富で清潔感があり、見晴らしが良いことでした。

住民とIターン者活動の波及効果

最初のIターン家族からスタートし、現在のようにIターン人口が増えたのにはどのようなステップを踏んできたのでしょうか。それは、もともと地域で取り組まれていた講演会にIターン者の人的ネットワークを活用し講師を地域に招いたことから始まります。その後、講演会開催だけでなく有機農業研究会のPRなどを続け、地域外から情報を積極的に取り入れる一方で、地域内情報を地域外にも発信していきました。

その過程で、その他の地域住民も触発され有機農業についての研究などに組みはじめました。

また、廃校を活用して、新規就業者技術習得の支援組織・施設として「籠ふるさと塾」が開設され、体験型、実習型、定住型の3コースがスタートしています。

体験型は、3日間、実習型は、まず3日間の仮体験の後1週間から1年、定住型は、実際に移住できるかの判断と地域とのこころの触れ合いを実感できるように5日間の生活体験を準備。塾の参加条件には、習得後地区内残留が義務づけられてはいませんが、結果的には多くの人が残留を希望しています。行政は空き家の斡旋やふるさと定住促進住宅の建設（9軒）等に対応しています。

近年では、Iターン者が「市民権」を得て区長となり、またIターン者が中心となりイラスト作成も含めた手づくりの「色川だより」の編集・発刊を続けています。Iターン者が地区内の町のオートキャンプ場の管理人にもなっています。

維持・継続のキーワード

現在、直面している課題は、Iターン者と地域住民の地域づきあいやIターン者の世代間の意識差が生じてきており、意識の連続化と一体化があります。また、移住したくても農地や空き家が不足してきて、移住できない人もあります。

Iターン者との共生による活力のある地域づくりの条件は、魅力的なロケーションで地域外からの質の高い情報が豊富であること、Iターン者側は移住哲学の明確さと地域内外

にその共鳴者が存在すること、地域住民側は情報の大切さがわかりIターン者と一緒にテーマに取り組む意欲を持つことの3点です。

個人の価値観が多様化してきている今日、大都市志向とともに地方志向も増えるのではないのでしょうか。すべてのまちや地域が該当するわけではないにしても、大都市住民が自分の気に入った地域を訪れ、リピートして、住んで、市民権を得たいという人がいる一方で、地域側に受け入れの仲人システムができれば、地域外の人力も借りて生き生きとした地域ができるのではないのでしょうか。

本地区の場合Iターン者家族の受け入れを地域側が決断した本当の理由は、保育所存続のために園児が必要だったことが、実はこの懇談ではじめて披露され、地域側のメリットの有無が最大のポイントだと痛感しました。

地域住民と一緒に設計した防災公園「北条ふれあい幸園」がオープンしました

【京都事務所／松尾 高志】

さる4月29日のみどりの日に、兵庫県加西市北条町で、防災公園「北条ふれあい幸園」の竣工式が開催されました。



竣工式典

当日は、天気にも恵まれ、地域のお年寄りから子供達まで約三百人が参加し、プラスバンド演奏や炊き出しなどで、皆のコミュニティスペースの誕生を祝いました。

北条町は、加西市の古くからの中心市街地として栄えた地区でしたが、近年は人口減少や商店等の周辺への流出等、活力の低下が見受けられました。また、生活道路が狭く、オープンスペースも少ない等、防災面や住環境面での課題を抱える市街地となっていました。そこで、平成8年から地域住民らが中心となって「北条地区まちづくり協議会」を結成し、街なみ環境整備事業を活用したまちづくりに取り組んできました。この公園は、この事業によって整備された最初の地区施設で、トイレ、備蓄倉庫、耐震性防火水槽等を備えた防災公園（敷地面積1,866㎡）として整備されました。

アルパックは、街なみ環境整備方針の策定以来、ずっと北条のまちづくりに関わってきました。設立準備段階から協議会の運営のお手伝いをさせてもらい、この公園の実施設計もアルパックで担当させてもらいました。設計にあたっては、協議会をはじめ地域住民が参加するワークショップを開催し、様々なア



子ども達による公園に植えられた樹木の銘板づくり



子ども達が空に風船を放つ

アイデアを出してもらって、その意見を反映しながら整備内容を決定しました。その結果、広がりのある芝生広場や市民菜園、水汲みポンプやすべり台などの遊具を整備することになりました。

「北条ふれあい幸園^{こうえん}」という愛称も、協議会が、地域住民から募集して選定したものです。また、今回の竣工式典についても、協議会主催とし、役員を中心に内容の企画を行いました。

式典では、来賓祝辞に続き、愛称募集に応募した住民に記念品を贈呈し、記念植樹のあと、全員ジュースで乾杯を行いました。その

後、地元の北条中学校の吹奏楽部によるブラズバンド演奏が披露されました。子供達には、公園内に植えられた樹木の銘板をつくってもらったりもしました。

地域の女性たちが当日朝早くから用意したお赤飯のおにぎりや関東炊きが参加者全員にふるまわれ、綿菓子の屋台の前に子供達が行列をつくるなど、とても楽しいひと時を過ごすことができ、裏方に回った市役所の職員の皆さんや、協議会の役員の皆さんも、大変満足そうでした。

当日がゴールデンウィーク初日であったこともあり、筆者も自分の家族を連れて駆けつけ、普段滞りがちの家庭サービスを兼ねることもできて大変ありがたい想いをしました。

北条地区のまちづくりは、これからもまだ続いていきます。我々も、今回の経験を生かしながら、地域の方々と一緒に、これからも精一杯取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

所員一人ひとりの一口メッセージ～その3～

21世紀に向けて

木澤 謠子（東京事務所）

21世紀！私も新分野である「アルバック」に飛び込んだ今。事務所員一丸となって、良い仕事が達成できるよう微力ながら、あきらめず何事にも興味を持ってスタッフの一員として頑張っていきたいと思います。



めざそう “じゅんかん” 型人間！

小阪 昌裕（大阪事務所）

40年前から現住所に住み続けてます。世の中がめまぐるしく変化している中で、今後も、“変えないことと、変えること”にこだわって生きていきたいと思っています。“純感”“潤環”型人間を目標に！



目標：頭のちゃぶ台をひっくり返せる人

武田 宏（大阪事務所）

「猿でもインターネットできる時代」に、いかに不真面目にこのメディアを捉えるかが課題ではないでしょうか。インターネットで「楽しく仕事できる」環境は、高効率でバリアフリーな社会を実現する一助となるのでは？



ほんとはのんびりやさんのわたし？

中村 孝子（大阪事務所）

「限界は心の中にある」という友人の言葉を大切に、臆せず何事にもチャレンジしてきたつもり。これからも自分のペースを守りながら、時間にのまれることなく、なんだってTryする“わ・た・し”でありたい。もちろん笑顔を忘れずに！



最近の仕事の中で

前田 怜嗣（京都事務所）

圧倒的なエネルギーと速度を中国の人達から感じた。また時代はIT革命と称して第三次産業革命の中。ここでも、顧客のニーズの把握とそれへの対応の高速化、サービスの向上が課題だ。それとセットで心が安まる場所とか、安まることが必要になってくるだろう。



『もの』から『こと』への展開を目指して

中根 博一（京都事務所）

まちづくりの中で主として人々の生活の舞台や器づくりを中心に仕事をしてきました。今後は、『もの』づくりとともに、その舞台や器の中で人々によって活き活きと多様な活動が展開・継続されるよう、一つでも『こと』おこしの手助けができるような仕事がしたいです。



「百里をいくものは九十里を半ばとす」

鮎子田 稔理（大阪事務所）

大学では広報社会学を学びつつ女性学に首を突っ込み、何故か今、建築の道をひたすら迷走中。艱難辛苦？（抱腹絶倒？）に耐えつつも、少しずつ前に進んでいるのでしょうか。



人災は忘れずにやってくる

前田 恭宏（大阪事務所）

今春弥生12日の未明に我家は水害に見舞われました。原因は2層上の住戸が給水栓を閉め忘れた為という基本的なことでした。日々「忙しさ」という名の下に忘れられている「基本」を肝に銘じ人災に合わないよう。



『いろいろ覚えたけれど』

三木 健治 (京都事務所)

アルバック→区分所有→雨水調整池→ケアハウス→スコーピング→グリーンコンシューマー→まちづくり公社→家賃対策補助→容積率緩和→ワークショップ→プロムナード→道路情報通信システム……どこまで広がることやら。



コンサル？混猿？困る？

森岡 武 (大阪事務所・干支=申)

「アルバックって？」「『知識』<『経験』<<『勘』を重視し、五感でいうところの触覚、嗅覚で動くフレキシブルな集団ですかね。」



「それじゃまるで動物の群みたいじゃないですか。」

「人間だって動物ですよ??？」

「アルときは…」

山本 昌彰 (大阪事務所)

アルバックとは

「アルPAC」

アルときは

「P」lanner…

アルときは

「A」rchitect…

アルときは

「C」oordinator…

いろいろな顔が求められる今日この頃です。



「こころに残るまちの風景づくり」

水谷 省三 (京都事務所)

人はだれでも忘れられない、ふとこころに浮かぶ風景があるものです。そんな風景の1カットに住み慣れたまちの風景や旅先での風景などもあるはず。なにげなく見過ごしてしまいがちな風景のなかにも、こころ動かされるものを感じる感覚を大切に、こころに残るまちの風景をつくるのが目標です。



困難も共に楽しみながら・・・

森川 宏剛 (京都事務所)

地域づくりへの熱意、社会貢献への前向きさ、仕事、プライベートを問わず、そんな思いで頑張る人は楽しいですね。行く先はなかなか見えませんが、共に一歩ずつ進んでいく充実感を楽しみたいと思います。



地方産情報技術革命児？

若林 秀和 (大阪事務所)

中国山地で育ち、人生の1/3を大阪で過ごす。若者でなくなりつつあるが、若者定住やUターンの言葉を聞くと、自分に置き換えて考えることも。最近ではPC関係の趣味が講じてか、委託者からも“オタク”と思われる…。



企画力と実行力の向上をめざします

〔代表取締役社長／金井 萬造〕

弊社第34期株主総会を去る6月27日に開催しました。より一層の経営体制の強化をめざし、現取締役の再任とともに、新しく松本明と中根博一の2名を取締役に選任しました。特に京都事務所の強化に当たりますが、旧来にもまして皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

この一年間、時代の要請と地域ニーズに少しでも答えられるよう、経営運営に努力するとともに、所員の参加など、全社一丸となつてまいりました。

特に、所員一人ひとりの自主自立化と働きがいのある明るく元気な職場づくりに取り組み小さな芽を大切にしつつ着実に動き出しつつあります。

新年度は、企画力と実行力などの創造性の力量向上の年として、積極的に取り組みを推進していきたいと願っています。

社会経済情勢が、先の見えにくい状況の中で、皆さまや関係機関との連携をより強くすることで、明るい地域づくりに貢献してまいりたいと思っています。

個別の課題としては、情報化推進（ホームページと情報発信の体制づくり）、品質管理の強化、自己実現を重視した組織づくり、所内の交流など業務に取り組む体制の強化をめざしています。

以上、弊社の近況を申し上げましたが、新取締役はじめ役員及び所員への忌憚のないご指導、ご鞭撻のほど、繰り返しよろしくお願い申し上げます。

(株)九州地域計画研究所から(株)よかネットへ

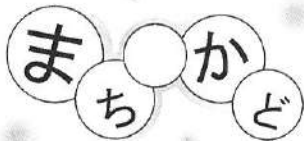
〔代表取締役社長／山田 龍雄〕

突然の変更で驚いている方も多いと思いますが、会社名変更のきっかけと、意味するところを申し上げたいと思います。

今年の2月の社内会議の時に当社の手づくり機関誌である「よかネット（隔月発行）」の経費節減策とこれからの情報化社会へ対応していくため、会社のホームページ作成を行う話が持ち上がりました。ドメイン名は当然“YOKANET”にしようということになり、この際、会社名も変えてはどうかということが直接のきっかけではなかったかと思えます。旧社名である(株)九州地域計画研究所については少しわかりやすくしたいということなど、前々から変更を考えていたのですが、きっかけがつかめなくこれまで変更できなかったというのが正直なところです。また、最近“よかネット”という名称が商品名などに使われてきており、この際対外的にもきちんとしたいということ、さらにこれまで以上にネットワークづくりや地域づくりの拠点として活動していきたいという思いも込めまして「よかネット」を正式な社名とした次第であります。福岡県や佐賀県などでは「アルバック」が浸透しており、一部の自治体では、これから「よかネット」にきりかえてもらうには少し時間がかかりそうですが、これまでに上により良い地域づくりに取り組んでいくため、所員一同精進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

ホームページ：<http://www.yokanet.com>

E-mail：info@yokanet.com



時を止めるまちの要素

〔大阪事務所／森岡 武〕

偶然か、それとも必然か。久々にゆったりとした時間感覚と豊かな空間体験の機会に恵まれた。

それは、宝塚市緑の基本計画の現地調査での‘体験’。緑と調和した街並みとシンボルツリーをファインダーにおさめるため、有馬街道と西宮街道そして京伏見街道の結節点にあたる宿場町「旧小浜宿」をめざした。

駐車スペースを探して徐行していると、狭い路地空間を両側から圧迫するようにうっそうとした緑の塊が迫りだした。深い谷底と相まって、あたりに深閑とした気を与えている。若葉のにおいが鼻を突いた瞬間に、目の前がふっと開けた。

こぢんまりとした畑と屋敷跡が残る。そこに古井戸が目飛び込んできた。なにげなし車を降り、あたりに目をやると、楠の大木と目新しい白壁の民家が違和感無くそっと佇んでいる。惹かれるように、足を運んでみると「宝塚市立歴史民族資料館」とある。旧和田家住宅で、市内最古の民家だが、先の震災で半壊となり、市に寄贈され修復活用されている。

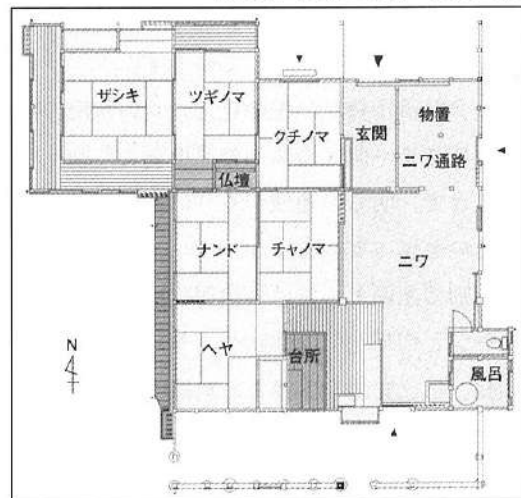
密とした現代のまち中で、緑と歴史に育まれた街並みを残し伝える市民と行政の協働による心づくしが、ノスタルジックな異空間の体験を導き、立ち止まってみようという感覚を呼び戻してくれる。



うっそうとした緑



楠の大木と白壁の民家（旧和田家）



宝塚市立歴史民俗資料館旧和田家住宅平面図
図出典：パンフレット

アルパック (株)地域計画建築研究所

- ・本 社
- ・京 都 事 務 所 〒600-8007京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- ・大 阪 事 務 所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
- ・名古屋事務所 〒460-0008名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925
- ・東 京 事 務 所 〒160-0011東京都新宿区若葉1-1・YTビル2F/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- ・九 州 事 務 所 (株)よかネット 〒810-0001福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673